

【鹿児島】指宿の町おこしのため県内初のプリスクールを開校-今林恵美・医療法人明正会理事に聞く◆Vol.2

2021年12月3日（金）配信 m3.com地域版

薩摩半島南端の地で今林整形外科病院（110床）を運営する医療法人明正会（指宿市）は、2021年7月、鹿児島県初のプリスクール（未就学児を対象に英語で保育を行う施設）であるMISプリスクール指宿を開校した。医療法人明正会理事の今林恵美氏に、プリスクール開校の経緯と目的、指導内容などについて聞いた。（2021年10月22日オンラインインタビュー、計2回連載の2回目）

▼第1回はこちら



医療法人明正会理事・今林恵美氏

—なぜ医療法人がプリスクールを開校したのですか。

当法人は、常に5年後10年後のビジネスを見出していくことを経営方針として掲げているのですが、その際に鍵になるのが東京で評価の高いもの、価値のあるものです。東京の今を見ることは地方の未来を見ていることになると考えています。

東京で教育水準の高い父兄は、現在、お子さんをどこのプリスクールに入学させるかを真剣に考え、慎重に選んでいます。そこで、東京で評価の高いプリスクールをいち早く指宿に持ち込むことが必要だと考えました。鹿児島県には純粋にプリスクールと呼べる所がなく、九州でもまだ少数にとどまります。

プリスクールを指宿で開校する一番の目的は町おこしのためです。当院は指宿薩南地区の中核病院の一つとして45年もの長きにわたり地域の方々に親しまれてきました。しかし、今後5年、10年を見据えた時に、継続的に病院を運営していくことができるかどうか。そこは判断が難しいところですが、指宿市の人口はますます減少していきますので、黙っていれば衰退していくだけです。「病院だけでは生き残っていくことはできない。町と一緒に生き残っていかなければならない」と考えました。

2021年3月末から積極的に動きました。東京でさまざまな人に会い、多くのプリスクールの評判を聞き、東京で最高に評価の高いプリスクールを指宿に持ち込むべく奔走しました。たくさんの候補の中から絞り込んで、最終的に残ったのがステラプリスクール南青山でした。

先方の社長さまのご意向を理解し、私たちが目指す価値観も理解していただきました。しかし東京からはるか遠い鹿児島で、しかも指宿という小さな町での開校ということで、最初は当然躊躇されました。「町おこしのためにはどうしても必要で、人が移住してくるためには教育環境を整えていかなければならない」という私の指宿に対する熱い思いをお伝えし、直談判しました。社長さまやご担当の方に指宿まで何度も足を運んでいただき、最終的に了承を得て、2021年7月にMISプリスクール指宿を開校することができました。これは今でも奇跡的なことだと思っています。

—2021年7月の開校時には法人職員のお子さん、そして9月からは地域枠ということで地域のお子さんの受け入れを開始しました。

もともと両方の受け入れを考えていました。一番の目的は町おこしのためですが、職員に対する福利厚生の実施のためでもありました。人口が減少していく中、若者を中心に都会に出て行く傾向が強まる傾向にあります。そこで、

子供に良い教育を提供できる環境があれば指宿に戻ってきてくれる人もいるのではないかと、あるいは都会に出る人をくい止めることができるのではないかと考えました。当院も職員の雇用を深刻に考えていた時期があり、引き留める理由が必要でした。

プリスクールの生徒の募集については、まずは職員第一と考え、7月開校時に職員のお子さんの受け入れを開始しました。そして職員のお子さんの受け入れがある程度完了した段階で、9月から地域のお子さんの受け入れを開始しました。



MISプリスクール指宿

—プリスクールの定員は12人とのことですが、子どもの加入状況はいかがですか。

当初予想していた以上にスローペースの印象です。地域性ということだと思いますが、英語に対する抵抗感や新しいものを受け入れる柔軟性などの要因で、思ったよりも少し時間がかかっているのかなという印象です。

とはいえ、プリスクールに入学したお子さんが大きく変化していく様子が顕著に見られます。最初はふさぎ込んで目を合わさずに下を見ていた子が、外国人の先生と1~2カ月接していく中で別人のように変わっていくということがあります。私もその様子を見て子供の無限の可能性を感じると同時に、ここに目を付けたことは間違いではなかったなと思っています。

お子さんのそうした変化を見て他の親御さんが動き出すという地域性があるようです。30人ぐらいの職員が興味を持って見学に来て、生徒は少しずつ増えてきています。予想以上に時間はかかっていますが、職員枠はそろそろ一杯になる見込みです。

地域枠はまだ余裕がありますが、テレビや新聞で取り上げていただくとプリスクールの良さが伝わりやすいようですので、私自身が広告塔となってテレビや新聞を通じて積極的に広報活動を行っています。

—MISプリスクール指宿の指導体制と指導内容について教えてください。

指導で一番の軸になるネイティブスピーカーの外国人講師（男性1人）とネイティブレベルの日本人講師（女性1人）がいます。現在、指宿市内の2カ所でMISプリスクール指宿を運営しているのですが、1カ所は0歳から2歳まで、もう1カ所は3歳から学童までと年齢で分けています。ネイティブスピーカーは毎日在籍しており、子供たちは基本的に英語で授業を受けます。全部で1万5000種類の本気プログラム「本気保育」があり、日々子供たちは本物に出会い感動を体験しています。

「本気保育」プログラムは、年間計画、月間計画、週間計画が決められています。英語だけでなく日本語の教育も行いますし、イタリアから本物のオペラを聞かせる音育、オリンピック選手が監修したメニューを選手自らが指導する体育、実際に出汁を飲む食育、そして数学やITの学習も提供しています。

外国人講師は現在鹿児島市内に住んでいるのですが、指宿への移住を提案し、間もなく移住してくる予定です。町おこしという観点で、こうした移住促進活動も積極的に行っていく必要があると考えています。指宿は観光資源も豊かで気候も良いので、外国人が住む場所としても魅力ある地域だと思っています。

—今後の展望をお聞かせください。

分院の麻布十番今林クリニックやMISプリスクール指宿の展開は、首都圏の病床不足が本格化する2025年に向けての事業戦略の一環であり、首都圏の患者さまを指宿で受け入れるための準備を鋭意進めているところです。首都圏の患者さまにとって、どこで手術をして、どこで治療を受けるのがベストなのか。その時に指宿が選択肢の一つとな

り、「指宿に来て良かった」と思ってもらえるようしっかりと準備していきます。首都圏の病床不足を解消すると同時に、指宿の町おこしにも貢献していきたいと思っています。

それと、当院は慶應義塾大学病院と密に連携した東京色の強い病院ですので、これからもその特色を大いに生かしてやっていきます。日本で5本の指に入る渡辺航太医師の脊椎手術を間近で学ぶこともできますし、他にも脊椎のスペシャリストがいます。東京からは少々遠いですが、専門医療をしっかりと学ぶことができ、かつ子どもさんたちに先進的な教育を受けさせることができる環境を整えていきますので、移住して勤務することも可能だと思います。

ブリスカールについては、12人の定員はすぐにいっぱいになると思いますので、需要のある限り、指宿市内に拠点をどんどん増やしていこうと思っています。

◆今林 恵美 (いまばやし・えみ) 氏

玉川学園女子短期大学英文学科卒業後、森ビル株式会社の営業部、外資系銀行・証券会社における欧米人対象の日本語教師を経て、シンガポール航空・トルコ航空の外資系航空会社に在籍し、国際線客室乗務員として国際線に乗務。フライトの傍ら客室乗務員養成の教官として採用・教育指導に携わる。その後厚生労働省職業訓練認定校等を経営。2017年9月に麻布十番今林クリニックの経営に参画。2021年4月に医療法人明正会の理事に就任。著書に『幸せぐせを身につける7つのマインドマッスルトレーニング (幻冬舎ルネッサンス)』がある。

【取材・文＝堀 勝雄（写真は医療法人提供）】

記事検索

